

あやなり

a y a n a r i

文教大学学園
校友会報

2016.7.31 第3号

発行：文教大学学園

編集：経営企画局 校友会室

[特集1]

キャンパスの「今昔」写真館

文教今昔物語

おもいで学舎

[特集2]

学園に根づく教育の伝統

文教スピリット

- 
- 02 学園理事長の挨拶
 - 03 文教大学学園の概要 / 文教HOT Topic
 - 04 文教人 / 130,000
 - 12 恩師便り
 - 16 校友会の輪
 - 18 学園NEWS

文教大学学園の卒業生や現役・退職教職員など、関係者の皆様にお送りする広報誌、

「あやなり」第3号をお届けします。

文教大学学園の各校の情報や、

卒業生・退職された先生方へのインタビューなど、

楽しんでいただける内容を掲載いたしました。

この「あやなり」が人と人、人と学校をつなぐ場であればと願っています。



あやなり a y a n a r i

文教大学学園校友会報

あやなりとは

「あや(文=文教)は人なり」という想いを込めて。いにしえの時代、「あや・文」は物の面にあらわれたいろいろな形、様々な線が交錯した模様を指す言葉として使われました。「あやなり」も様々な情報を発信し、皆様の目を楽しませる冊子を目指します。

「あやなり」第3号をお届けします

文教大学学園 理事長 野島 正也
文教大学 学長

文教大学学園は、1927(昭和2)年に立正幼稚園、立正裁縫女学校からスタートし、現在は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校高等学校、大学、大学院を持つ総合学園として発展してきました。この間、卒業生は13万人を超え、教育界を始め、各界で幅広く活躍されています。

2014(平成26)年に創刊いたしました「あやなり」は、第3号を迎えます。創刊号、第2号と学園の近況や同窓会の活動状況等をお知らせしてきました。今回の「あやなり」も温かいアンケートのご意見を念頭に、楽しんで読んでいただけるように内容の見直しを行いました。「あやなり」を通じて私たちの連携や親睦がさらに深まれば幸いです。

文教大学学園は、2017(平成29)年に創立90周年を迎えます。

今後も、卒業生、在学生、父母、教職員のご協力、語らいと賑わいのある文教コミュニティを育て、文教大学学園全体が一丸となってさらに発展していくことを願っています。引き続き宜しくご支援を賜りますようお願いいたします。

文教大学学園 2016年5月1日現在

文教大学附属幼稚園

開設：1927(昭和2)年
園児数：167名

園長：柳 久美子

所在地：旗の台キャンパス
〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
Tel：03-3781-2798



文教大学附属小学校

開設：1951(昭和26)年
児童数：268名

校長：島野 歩

所在地：石川台キャンパス
〒145-0065
東京都大田区東雪谷2-3-12
Tel：03-3720-1097



文教大学附属中学校高等学校

[中学校]

開設：1947(昭和22)年
生徒数：452名

[高等学校]

開設：1948(昭和23)年
生徒数：810名



校長：戸田 弘美

所在地：旗の台キャンパス
〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17
Tel：03-3783-5511(代)

文教大学・大学院

開設：1966(昭和41)年
学生数：

教育学部 1,517名
人間科学部 1,885名
文学部 1,680名
情報学部 1,497名
国際学部 1,146名
健康栄養学部 424名
経営学部 560名
大学院 102名
専攻科 6名
外国人留学生別科 15名
(大学・大学院合計 8,832名)



越谷キャンパス



湘南キャンパス

学長：野島 正也

所在地：

[越谷キャンパス]
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337

Tel：048-974-8811(代)

[湘南キャンパス]

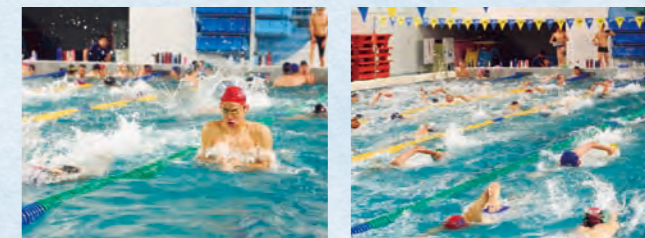
〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
Tel：0467-53-2111(代)

文教 HOT Topic

文教大学附属中学校高等学校

部活動紹介

水泳部



先輩後輩の垣根を越えて切磋琢磨し合う環境

初心者から、関東・全国大会を目指す生徒まで、それぞれが目標を持って取り組んでいる水泳部の皆さん。練習は中・高、男女合同です。「うちの生徒はスイミングクラブには行かず全員が学校だけで練習しているの」と話すのは顧問の前畑章子先生。「友達と励ましあい、妥協せず全力で取り組むと、必ず自分が成長するということを実感してほしいんです」その結果、自主的に泳ぎ方の研究をしたり、上級生が下級生に教えたりという雰囲気生まれ、助け合いながらそれぞれの目標に向かって努力する水泳部の土壌ができあがりました。

●部員数：高等学校58名、中学校36名

●活動日：月・火・木・金・土曜

ソングリーディング部



ソングリーディング部 中学

ソングリーディング部 高校

全国大会に向け、技を磨く毎日

高校生は夏に1回、冬に1回の大会に向けて柔軟や筋トレ、演技の練習を行います。未経験者も多く、新入生歓迎会で披露する演技に憧れて入部する生徒が多いそう。副部長の鈴木夏実さんは「後輩の成長はとてうれしい。最初は全くの初心者だった子が、技を披露できるようになった時は感動します」と笑顔で語ってくれました。中学生も全国大会に向けて練習に励んでいます。高校生と中学生は別々に活動していますが、全国大会のファイナルに進出するときは、一緒に演技を創り上げていきます。

●部員数：高等学校22名、中学校15名

●活動日：月・火・水・金・土曜(火曜は高校生のみ)

文教人

130,000

卒業生の数だけ文教人がある!

幼稚園から大学院まで擁する文教大学学園。卒業生は13万人を超え、全国の様々なジャンルで活躍しています。そんな「文教人」を追って、インタビューを行うこのコーナー。文教大学学園での生活から現在の活躍まで、今回は6人の「文教人」にお話をうかがいました。

高橋弘希さんの3作目、『短冊流し』が第155回芥川賞の候補となりました!!

人とは違うベクトルを持っていることが、誰にもつukれない物語を生み出す

高橋弘希さん 作家
文教大学文学部中国語中国文学科 2004年卒業
たかはし・ひろき



芥川賞候補に選ばれた、デビュー作『指の骨』。続く2作目『朝顔の日』も連続ノミネートとなりました。

最初の小説は在学中に執筆

新潮新人賞を受賞したデビュー作が、芥川・三島賞候補となった『指の骨』。第二次世界大戦の南方戦線を舞台とした小説は、そのリアルな描写が話題となった。そして続く2作目『朝顔の日』も芥川賞候補の一作として並んだ。

「すごいと言われればそうですけど、候補なんで。そんなもんかなあと……(笑)」

実は最初の小説は文教大学在学中に執筆している。卒業して就職してしまったら書けなくなるという衝動に突き動かされ、「わりと焦って」書いたと言う。その作品は文芸誌の新人賞に応募するもあと一步のところを逃す。

わたしにとって文教とは

外縁をたどっていけば、小説を書くきっかけは文教大学にあったと言えるかな。今後大学を舞台にする小説を書くことになったら、大学時代に見た風景やあった出来事などを参考にすることもかもしれません。

「その当時の大学の雰囲気とかよく覚えていますね。色づいた銀杏を見て感傷的な気分になったり、いつまでもこの時間が続けばいいなあと思ったり。物語をつくりたいという欲求は、わりと小さい頃からありました。それもあって文学部に進学したのですが、学生時代という自由が許される猶予期間があったから書けたのだと思います」

誰も書いていない物語を創作したい

卒業後は書くことから離れ、予備校に就職。講師を7年間務めたあと退職、それと同時に再び小説の世界へ戻った。

「人と同じことができればよいのですが、それができないというか、興味がないというか。周りの人たちみんな、すごいと思いますよ。やる気のベクトルが自分とはまったく違う。でも小説に向かう時にも、人が書いていない変な物語をつくりたいという気持ちがあって、それが自分の創作を支えているという気がしますね」

▶執筆は喫茶店が多い。初めは紙に書き、パソコンで仕上げるスタイルだ。



針と糸は魔法の道具。布に思いを縫い留める私だけのキルト

岡野 栄子さん

おかの・えいこ
キルト作家・キルト工房「バスケット」主宰
立正学園女子高等学校 1964年卒業
立正学園女子短期大学栄養科 1966年卒業



文章とキルトをあわせるなど、独自の作品づくり

「私のすごいところは、一度決めたらぶれないことね。やろうと思ったら絶対にやってしまう」

著書『岡野栄子のキルトエッセイ』*を手話するのは、キルト作家の岡野栄子さん。本は直接出版社へ原稿を持ち込み、形になった一冊だ。最初は相手にされなかったが、キルトと文章を完璧にレイアウトしたスクラップブックを見せると、編集者が関心を寄せるようになり、出版が実現した。キルトエッセイとは、まさに作家・岡野栄子の世界を言い当てた言葉だ。キルトにエッセイを添える、あるいはキルト自体に文章を縫い込んでしまうスタイルは、岡野作品の特徴である。

自分の気持ちを布に縫い留め、形にする

「中学生の頃から変わっていないのよ。書くこと、作ることが好きで、いつも詩やエッセイを書いていたの。中学はひ

たすら楽しい時代。先生方をあだ名で呼び、クラスの中になってイタズラばかりしていたわね。高校生になると思春期を迎え、校則や大人たちに対して『なぜ?』という疑問をいつも持っていたわ。それがまた書く動機になったのね」

その瞬間、瞬間にきらめく気持ち。それを真摯に見つめ、何らかの形にとどめることをいつも岡野さんは考えて来たのだろう。立正学園女子短期大学栄養科に進み栄養士の資格を取るも「計算して作るご飯っておいしくない」と素直に言い放ち、食卓に並ぶおいしいような料理をキルトで表現する。

「キルトと出会って40年あまり。気持ちを縫い留めていくことを、さらに突き詰めてやりたいと思っているの」

*『岡野栄子のキルトエッセイ』日本ヴォーグ社から1996年に刊行。

わたしにとって文教とは

樹木が大きく育つには、丈夫な根が必要ね。私にとって文教とはその根っこを培った場所。無邪気に遊んだ中学時代、反骨精神からいろいろなことに考えを巡らせた高校時代。これらが堆肥となって太い根をはり、岡野栄子という木が育ちました。



▼仕事に欠かせないピンクッションもお手製。「私何でも作るのよ」と楽しそうに笑う。



今号の表紙のキルトは岡野さん作!

オペラの本場イタリアも認めた歌声

栗原 利佳さん

くりはら・りか
ソプラノ歌手
文教大学付属幼稚園
(越谷幼稚園)
1982年卒園

「越谷幼稚園に通っていた頃は、とにかく活発でおてんばでした」と栗原さん。当時からピアノを習い音楽に親しんでいたが、ミッション系の高校で讚美歌を歌ううちに歌の面白さに気づいた。体は小さかったが声に恵まれ、大学の音楽科では入学時から常に成績はトップ。2000年、本格的に歌を学ぶためにイタリアへ。コンクールやオーディションでは、「自分よりも明らかにレベルが低いイタリア人が合格する姿を見て理不尽さも味わいました。彼らに有無を言わせないほど飛びぬけたレベルにならなければならないと思い、自分を奮い立たせていたね」。プールで泳ぎ、暖炉に使う薪を腹式呼吸しながら運び、分厚く弾力のある筋肉をつけた。「まるでアスリート」と笑いながら当時を振り返る。

▲自宅も練習場所。今は『蝶々夫人』のオペラに取り組んでいる。

2002年にイタリア・デセンツァーノ市オペラガラコンサートでプリモプレミオ賞を受賞し、2005年にはイタリア・サレルノヴェルディ歌劇場でイタリアオペラデビューを飾った。舞台では、魔法がかかる瞬間があるという。「天とつながるような感覚というか、自分が歌っているのではなく、何かが上から降りてきて私の体を通して伝えている。集中して、いいコンディションで舞台ができた時はそういう感覚になります。一度でもこの瞬間を味わうと、もうやめられません」

わたしにとって文教とは

日本語に訳すと“魂の自由”。型にとらわれない自由さを幼稚園から学びました。好きなことを好きなだけさせてもらい、先生方もそれをおおらかに見守ってくださる。ここが自分の出発点だったことはとても幸運でした。



教えること、学ぶことに終わりは無い

小学6年生の時、「将来の夢」に「小学校の教員になること」と書いた菊池さん。教員を目指し入学した文教大学教育学部では、同じ目標をもつ仲間と出会い、「理想の教育のありかたや教師像について、真剣に議論したり意見をぶつけ合いました」。夢を叶え、小学校の教員になったが、実際に教壇に立つと、理想論だけでは突破できない問題にぶち当たることも。「思うようにまとまらないクラスの担任になった際、児童の興味を引き付け、クラスをひとつにする方法はないか模索していました。そんな時に知ったのが、中部大学の深谷圭助先生が提唱する『辞書引き学習法』でした」。国語辞典で引いた言葉に次々と付箋を貼っていくこの学習法は、ゲーム感覚で漢字や熟語に親しみ、語彙を増やす効果があると話題になった。菊池さんはこのユニークな学習法などによって、さいたま市優秀教員に選ばれ、2011年度文部科学大臣優秀賞も受賞。目下、授業に新聞を取り入れるNIE(教育に新聞を)など、新たな学習法にも力を入れている。「実は教員の仕事をしながら2年間、通信制の大学院で学び、

今年の3月に無事卒業できました。今後は、自分の指導法を論理的に裏づけをするために、再び大学で学びたいという夢があります」。菊池さんの学びは、まだ終わらない。

▲『辞書引き学習法』で使う辞書。形が変わるほどたくさん付箋が貼られている。



菊池 健一さん

きくち・けんいち
さいたま市立海老沼小学校教諭
文教大学教育学部社会専修 1999年卒業

わたしにとって文教とは

文教大学は、“小学校の教員になる”という子どもの頃からの夢を叶えることができた場所。今でも公開講座に参加したり図書館を利用したり、次の夢を叶えるための場所でもあります。



「文教は私の一部」。文教の魅力を三代にわたって語り継ぐ

永井 玲子さん

ながい・れいこ
文教大学付属小学校同窓会副会長
立正女子大学教育学部付属
石川台小学校 1970年卒業

わたしにとって文教とは

地元根づいて生活しているので、文教の児童たち、文教の校舎などは日々の生活の風景の一部になっています。ごく当たり前にあるもので、しかし、なくてはならない大切なもの。まさに私の一部分になっています。



自身、娘、孫の三代にわたり文教大学付属小学校(以下：文教)という永井玲子さん。現在は長女の娘が3年生に在籍する。その孫が、母親の身につけた制服を着たのを目にした時は感無量だったと言う。

「池上線に乗っていて、文教の児童たちを見るじゃないですか。そうすると、この制服を孫にも着せたいな、文教に入れたいなと思っていました。また、私立で良い教育を受けさせたいという思いもありました。自分が小学生の時には感じませんでしたが、娘たちを入れてから文教の良さを実感しましたから」

学力を身につけることはもちろんだが、食の恵みに感謝してご飯をいただく「食法」など、躾や情操教育に力を入れている点が文教の教育の魅力だと語る。また自身毎年クラス会を行っているが、そうした小学校時代の友だちとのつながりを貴重なものと感じている。



▲きれいに保管されていた卒業文集。

「会っていて本当に楽しい、家族のような仲間です。小学校の頃の思い出を話しているうちに、気持ちも当時にもどってしまう(笑)。リフレッシュできるかけがえのない時間ですね。子どもたちにもこうした絆を、文教で紡いでほしいと思っています」

毎年夏には、同級生たちと学校の寮がある八ヶ岳へ出かける。かつての少年・少女になって高原の夏を楽しむ。

体を動かす楽しさを伝えたい

高校に入学して2日目、「それ以上髪を切らないように」と古参の教員に注意され、ポカーンとしていたと言う中島さん。

「当時は女子校。規律の厳しいお嬢さん学校に、ショートカットの体育会系やんちゃ坊主がまじっちゃったという感じで、浮いてました(笑)」

子どもの頃から体を動かすのが好きで、小学校教員になりたくて文教大学付属高等学校に入学した。好き放題やっていたという明るくオープンなキャラクターは、いつしか学年の人気者に。生徒会長に立候補して当選するなど目立つ存在だった。そうした中で、毎朝必ず顔を出していたのが保健室である。

「山口早苗先生(本誌15ページにご登場)は体育の先生から養護教諭になった方。言い方は厳しいのですが、親身になってくれているのがこちらに伝わってきました。家庭の悩み、進学への不安などなんでも話して、救われました」

卒業後は日本体育大学へ進学し、最終的には大学院で博士課程を修め、現在は共立女子短期大学の准教授として学生たちの前に立つ。

「生活の中に運動を取り入れてほしいと思っているのですが、大学の体育はそのきっかけを作る最後の機会。学生の苦手意識をとっばらって、体を動かす楽しさを伝えたいですね」

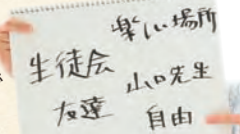
中島 早苗さん

なかじま・さなえ
共立女子短期大学准教授
文教大学付属高等学校 1996年卒業

◀授業中に必ず使うホイッスル。

わたしにとって文教とは

学校はいつも楽しい場所でした。多分大学入試の日以外、一日も休んでいないはず。友だちに会ったり、保健室に山口先生を訪ねていたりするのが目的でした(笑)。生徒会長に立候補したのは、もっと学校を楽しみたいと思ったからでした。



【特集1】～文教今昔物語～

おもいで 学舎

旗の台校舎編

旗の台校舎にはかつて文教大学女子短期大学部や文教大学経営情報専門学校も設置されていました。現在は文教大学付属幼稚園、付属中学校高等学校のみになり、2016年9月には校舎のリニューアルが完了する予定です。

現在の旗の台駅



東急大井町線と東急池上線があり、大井町線は急行も停車する駅になりました。

1983年頃の旗の台駅



昔は池上線の改札は五反田方面にしかなく、蒲田方面に乗るには、改札内にある踏切を渡っていました。

内庭



おしゃべりの広場だった内庭。噴水がありました。

正門



青春時代を過ごした懐かしい学舎。今もなお変わらずに残る物や、進化を遂げた校舎の様子など、今昔の写真を通して、それぞれの想い出を振り返ってみてはいかがでしょう。

現在の正門



新校舎のコンセプトは「PORT(港)」です。学校という港で積み、勉強や行事などの体験すべてが、進路を見据えた大海原(社会)への準備になります。

文教大学付属 中学校高等学校

教室と廊下の境をガラス窓にし、緊張感を持って授業が受けられるようにしてあります。全教室に電子黒板があります。

現在の教室



今も学園を
見守っています

現在の図書館



約42,000点の資料を備え、CDやDVDも視聴可能です。



現在の音楽室

明るく開放的な学食で、メニューも豊富です!!

学生食堂



南棟階段/踊り場



旗の台校舎の中で、1番昔の雰囲気を残している場所です。

創立50周年事業として、創立者馬田行啓・小野光洋先生の銅像が完成!



現在の歩道橋

文教大学付属中学校高等学校

西側にあった校舎と体育館をつなぐ歩道橋は、今も健在です。

歩道橋



中高の授業風景

校舎の階によって、中学校と高等学校が分かれていました。

文教大学女子短期大学部

家政科授業(和裁)

1953年、立正学園女子短期大学家政科を開設。栄養士養成施設として認可されました。



文芸科ゼミナールの様子

10人弱で教授を囲むゼミナールを中心に、文芸科の全教科が編成されていました。



英語英文科授業の様子

英語の「読む、書く、聞く、話す」の4技能を総合的に習得する科目を実施していました。



図書室

蔵書数約60,000冊! たくさんの生徒が訪れていました。

心静める和式礼法室。毎週1時限礼法の授業がありました。

礼法室



文教大学付属幼稚園



新しい園舎が完成し、全保育室が南向きで明るい環境となりました。園庭は、安心して遊べる人工芝です。

幼稚園のシンボル「マンボ」のオブジェ。40年近くみんなの成長を見守ってくれたベニコンゴウインコがモデルです。

保育室



保育室は細部まで木材を使用し、木のぬくもりにあふれ快適で、ゆとりがあるように配置しています。

文教大学付属幼稚園



幼稚園園庭 創立80周年を記念して園庭の一角に飼育小屋が新築されました。

文教大学経営情報専門学校

正門



1985年、商業実務系の専門学校として開校。3,000名近い卒業生を輩出しました。

昔

【特集1】～文教今昔物語～

おもいで 学舎



学校の中心に図書コーナーがあり、日常的に本と触れ合える環境です。休み時間には、自然と児童たちが集まり、本を読んでいます。

図書スペース



体育館



石川台校舎編

1951年に誕生した石川台校舎は、60年以上にわたり、地元の人々に親しまれています。2014年10月には校舎の全面リニューアルが終了し、明るく開放的な学び舎になっています。

現在の石川台駅



隣の洗足池駅に至る池上線の掘割は、春になると桜や菜の花が咲き、季節を感じさせてくれます。

現在の校舎



「健やかな体づくり」のため、休み時間も積極的に体を動かします。校庭には、子どもたちの明るい声が響いています。

現在の教室



2014年度より、1クラス25人制の2クラスになり、少人数教育で授業を行っています。また、教室には電子黒板を備え、動画やwebを活用した授業もあります。

溝の口校舎編

1951年に溝の口小学校、1953年に溝の口幼稚園が開設され、立正精神に基づく教育が行われていました。

【溝の口小学校校歌】

正しき道を一すじに 進まん浄き心より
めぐみの花も開くべき はらからこそは楽しけれ
学びの園のあたたかき 光のうちにまどいして
望みの実をも結ぶべき はらからこそは嬉しけれ

現在の高津駅



2009年に複々線化工事が完了し、大井町線の一部列車も停車するようになりました。

現在の溝の口幼稚園・小学校の跡地



跡地に建つ記念彫刻
「リレーションズ」



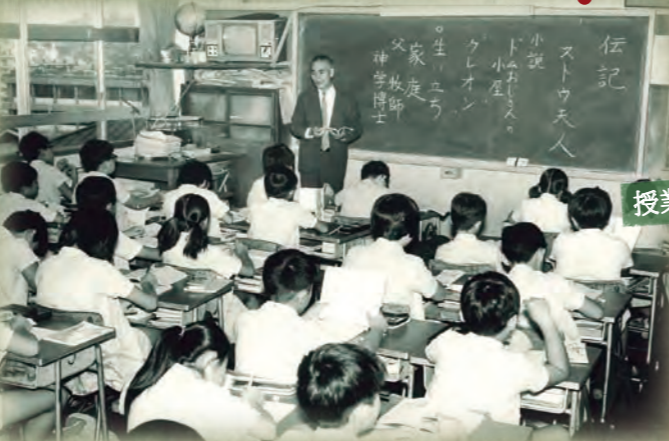
現在は、川崎市の高津図書館がある所に、文教大学付属溝の口幼稚園・小学校がありました。文教大学付属幼稚園同窓会が中心となり、卒業生たちが「一円玉貯金」をして建設費の一部を出し、記念彫刻を寄贈しました。

校舎外観



石川台の高台にあり、朝夕に富士山を仰げました。

付属小学校界限 池上線と石川台の桜



授業風景

1クラス平均40名で、児童の能力に応じた指導を行っていました。英語、舞蹈、図画などの情操教育にも力を入れており、1年生から英語教育も行われていました。

1955年頃の運動会の様子



溝の口幼稚園・小学校校舎外観

同じ敷地内に、小学校と幼稚園が並んで建っていました。

幼稚園



幼稚園夕涼み会

自由あそびなど、楽しい生活の中から元気な子を育てていきます。

夕食会・盆踊り・花火大会を行う夕涼み会。浴衣で登園し、親子そろって夏の夜を楽しみました。

小学校教室



チーム・ティーチング方式を採用し、学習の個別化に対応しました。

小学校の授業風景



反応分析器を使っ
ての集団・個別指
導の様子。情報セ
ンター、反応分析
室、カリキュラム
研究室など、教育
のシステム化を目
指していました。





かつて文教大学学園で教壇に立っていた懐かしい恩師の方々の近況をお伝えします。今回は、2名の先生へのインタビューと合わせて、文教大学経営情報専門学校の元教員3名からのメッセージも届いています。

退職後は自由気ままな車の旅を満喫 ● 佐藤 新一先生

厳しかったのは生徒への愛情が強かったから

昭和43年、まだ女子校だった立正学園中学校・高等学校に赴任しました。それまでは男子校で教えていたので最初とはまどいもありましたね。自分ではやさしく接していたつもりだったのですが、卒業した生徒と同窓会で会うと必ず「昔はすごく怖かった」と言われます(笑)。顧問を務めた軟式テニス部のOB会に出ても「先生には随分しごかれた」と言われますが、厳しかったとすれば、それは生徒に対する愛情が強かったということ。学校は社会の縮図ですから、卒業して社会に出た時に困らないように、一人前の女性として何か必要かを考えていました。決して理由なく叱ったりはしません。特に私は保健体育の担当でしたから、礼儀作法や人としての振る舞い方などは厳しく指導しましたね。

平成12年3月に退職してからは、車で全国を旅して回るのが何よりの楽しみ



●さとう・しんいち
昭和43年立正学園中学校・高等学校に保健体育教員として赴任。副校長を務めていた平成12年に退職。

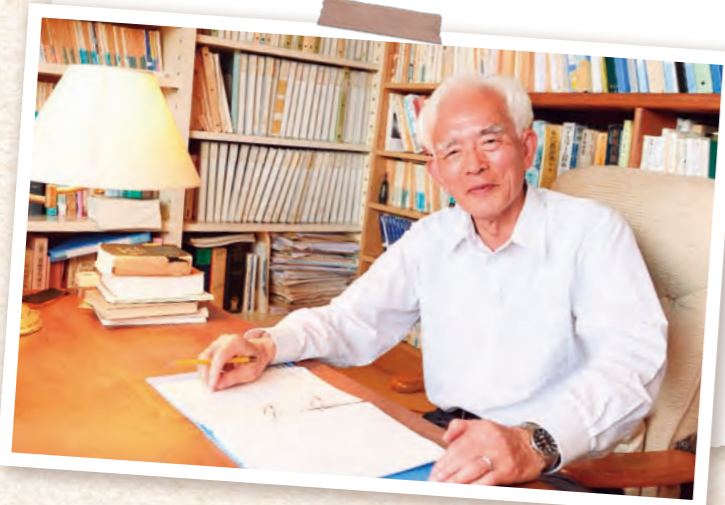


です。これまで旅といえば生徒の引率がせいぜいでしたから。そのためにワゴン車を買って、後部座席をベッドにして、夜は道の駅に車を止めて車内で寝泊まり。沖縄だけは飛行機を使いましたが、それ以外はすべて自分で運転して全国制覇しました。妻はついてこないで、一人で自由気ままな旅を満喫しています。ただ、最近肺炎で入院したこともあり、これからは体と相談しながらになるでしょうね。

学生たちのキラキラした目の輝きに勇気づけられて ● 村野 宣男先生

自分自身と向き合う時間をつくってほしい

現在も湘南キャンパスの生涯学習センターの公開講座で、一般の方向けに宗教と哲学について教えています。学生を相手にしていた時もそうですが、僕の授業は、人間の生き方について誰もがわかる言葉で教える。哲学者の誰が何を言ったとか、そういう知識を覚えるのではなく、人間の生き方や



精神的な問題について考えるということが哲学や宗教という学問であり、まずは自分で考えるということが非常に大切なことなんです。こうした授業は、高等学校まで暗記型の学習習慣でやってきた学生たちにとって難しい側面もあったかもしれません。しかし目をキラキラ輝かせて聞いている学生もいて、僕の言っていることが「響いている」という手応えに、随分勇気づけられました。

教員たちには日常に流されるのではなく、週に10分でもいいから、一体自分は何をやっているのだろうかとか、何に関心があるのだろうかとか、反省したり、考えたりする時間を持つてほしいと思います。立ち止まって考えることで新しい視野が生まれ、生きることがまた違った意味を持つてくるのではないかな。

●むらの・のぶお
昭和45年立正女子大学短期大学部に赴任。以来38年間哲学・宗教を専門に教鞭を執る。現在も湘南キャンパスで生涯学習センターの公開講座を受け持っている。



～文教大学経営情報専門学校 元教員3名からのメッセージ～

4月、花の季節に ● 久保田 幸子先生

●くぼた・ゆきこ 昭和63年文教大学経営情報専門学校 和文ワープロ非常勤講師。平成2年より専任講師。現在は文教大学非常勤講師。



毎年4月になると、桃や杏の花でピンク色に染まった中央高速道を思い出します。フレッシュマンキャンプに向かう時の風景です。6月の最初の資格試験に始まり、1年は資格取得に費やされました。2年生は就職活動に終始するので、入学間もないというのに、このキャンプで厳しい2年間への覚悟を求めました。それを受けて皆さんは勉強に、実習に、本当によく頑張りました。PCやワープロ専用機を個人で持つという時代ではなかったから、実習室は早朝も、放課後も学生でいっぱいでした。合格発表前の心臓を締め付けられるような思い。合格の喜び。不合格の苦い涙。そういうものを一つ一つ積み上げた2年間でした。仕事を続けている方、子育てに奔走する方、それぞれの毎日であの日々が皆さんの「頑張りの元」になってくれていると思いますし、傍でそれを見続けた私も、今、新学期を迎える度に、あの頃の皆さんの真摯な瞳に恥じない仕事をしなければと思っています。

専門学校の教員経験が今の原点 ● 太田 信宏先生

20代後半から30代にかけての9年間、専門学校で情報処理関連の授業を担当しました。ソフトウェア業界から転職した自分にとって、学校はまるで環境の違う世界でした。教員として一人前になるにはどうしたらよいか、日々苦闘しながら過ごしていたように思います。就任した年にすぐ1年生の担任を任されたのですが、最初の大きな行事がフレッシュマンキャンプ(新入生オリエンテーション合宿)でした。初日の夕食後にホームルームを開くよう指示があり、女子学生30数名が待つ部屋に入りました。新米教員の自分に、はたしてホームルームが務まるのだろうか、そのときの戸惑いと異常な緊張感は今でもはっきり覚えています。教員という職業を自覚することになった強烈な体験でした。年月を重ね、教員生活も30年になります。長く続けられてきた喜びとやりがいを今感じています。身の引き締まるような緊張感を持って過ごした専門学校時代は、自分の原点です。

●おおた・のぶひろ 昭和61年文教大学経営情報専門学校専任講師に就任。平成7年に湘南校舎文教大学女子短期大学部、平成22年に文教大学健康栄養学部に移籍し現在に至る。



まだまだ頑張っています ● 衛藤 敦先生

●えとう・あつし 昭和61年、専門学校設立2年目に専任講師として着任。平成10年3月の閉校まで情報処理科を中心に情報科目を担当。その後、文教大学事務局へ移籍し、大学の情報システムの管理運用に携わり現在に至る。



専門学校で私が主として担当をした情報処理科は、比較的人数であったこと、同じクラスでの授業が多かったこと、担任制であったことなどから、教員はクラス全員の学生の顔と名前をすぐに記憶し(学生の皆さんには迷惑だったかもしれませんが)、教員と学生の距離がとても近い学科でした。おかげで、教員として充実した日々を送ることができ、私にとってその後の教員生活の礎となったことにとっても感謝しています。

学生さんにとって、社会に出て即戦力になるための知識・技術を習得するための努力は大変だったと思いますが、学生同士はとても親密で、入学直後のフレッシュマンキャンプから始まってスポーツ大会、学園祭、研修旅行など行事も多く、楽しい学生生活だった方も多かったのではないのでしょうか。

残念ながら専門学校は閉校になってしまいましたが、専門学校での2年間が卒業生の皆さんのその後の人生にとって何かしら有意義な2年間であったとすれば幸いです。



[特集2] **文教スピリット**
 今も変わらず脈々と流れる
 文教大学学園の
 スピリット(精神)とは。

対談

石田恒好 × 星野常夫

文教大学 石田恒好 いしだ・つねよし(写真右)
 文教大学学園学長 1932年島根県生まれ。1972年より立正女子大学(現文教大学)教授。文教大学学長、学園理事長などを経て2005年より学長。2009年瑞宝中級章受章。

文教大学 星野常夫 ほしの・つねお(写真左)
 文教大学教育学部教授 1949年東京都生まれ。東京学芸大学、東京教育大学(現筑波大学)大学院で学び、1980年より文教大学教育学部教授。研究テーマは障害児教育。

石田●我々の共通点としては、かつての東京教育大学、現筑波大学の出身だということですね。

星野●世代は違いますが(笑)、同じ大学の先輩・後輩の間柄です。私が1980年に文教大学教育学部に赴任してからは、入試業務や教育心理学の授業を石田先生と一緒に担当させていただくようになり、上司と部下の関係になりました。

石田●上司・部下というのは形式上のことで、実際には仲の良い兄弟のような関係ですね。かわいがる兄と、それを慕う弟という(笑)。最も深い関係は、軟式野球部で私が初代顧問、星野先生が2代目顧問として野球部を日本一に導いたことでしよう。

星野●私は石田先生とキャンパスでキャッチボールをした時に野球の腕前を見込まれて2代目顧問に抜擢されたと認識しています。

石田●いや、それはちょっと違う(笑)。私の教育方針は、文教の建学の精神でもある「人間愛」です。人間愛が最も理

想的なかたちで育まれるのが家庭。野球部も仲の良い家族のような雰囲気になることで心の結束を生み、結果的に強いチームになるんです。星野先生の学生に対する接し方を見てみると、きわめて家庭的で、学生の兄貴という感じがした。この人だったら野球部の面倒もあたたかく見てくれるだろうと確信したんです。

星野●そうだったんですか。はじめて知りました。てっきり野球がうまいと思われたからだと(笑)。

石田●星野先生は努力して兄貴をやっているのではなく、もともと家庭的な人柄だから、自然にやれていたのだと思う。その最高の長所を買って後任を頼んだのです。大学の野球部の顧問は指導をする必要はありません。小中高大と上上がるほど、指導ではなく学生の主体的な活動が重要になる。いかにその気にさせる雰囲気があるのかが大切です。

星野●家庭的という意味では、文教は「いい学生」が多いですね。私の娘が小学生の頃、学園祭に連れて行ったら、「すごく面白かった」と言って翌年は友だちを連れて来ました。「遊び道具がいろいろあるから面白かったの?」と聞くと、「そうじゃない。一緒に連れて歩いてくれたお兄さんやお姉さんがとっても良かった」と。つまり、モノや道具じゃなくて、人が良かったと言うんです。それを聞いて私の文教の学生に対する見方が随分変わりましたね。

石田●家庭的、家族的な雰囲気によって、最終的には学園全体が「文教ファミリー」になるのが私の理想像です。教職員、卒業生、在学生はもちろん、ご父母も含めたすべての人たちが文教ファミリーとなり、日本一の家庭的学園と自他ともに認められるようになりたい。それが私の目下の夢ですね。

保健室から
 生徒を見守るまなざし

文教大学付属中学校高等学校
 山口早苗先生

41年前、山口先生が附属中高初の養護教諭として赴任した時、保健室には椅子がひとつ、だるまストーブがぼつんと置かれただけだった。「当時はまだ養護教諭が市民権を得ている時代ではなかったのですが、それでも本校には正式に養護教諭として迎えていただいていた」と山口先生。親にも担任にも言いづらいことが、山口先生になら言える。さまざまな生徒が保健室にやってきては、悩みや思いをぶつけるようになる。保健室とは、「子どもたちの本音が出る場所」だと山口先生は言う。「今この生徒は何を発信しようとしているのか、この子が訴えている意味は何だろう。常にそれを読み取るよう心がけています。すぐに解決策が見つからなくても、誰かに話を聞いてもらうことで、生徒は自分の気持ちを整理するきっかけになる」という。「私があなたのお母さんならこう思うよ」「あなたのその行動は自分を大事にしているの? もっと自分を大事にしてください」。時に厳しく、時にやさしく、山口先生は親



や担任とは違う角度から、41年間生徒に寄り添い、声をかけ続けてきた。「今は社会の変化とともに子どもたちの悩みも複雑化し、その背景にあるものをくみ取るのが難しい時代。私が経験したことを後輩の養護教諭に伝え、若い世代の意見も取り入れながら、これからは子どもたちの心の拠り所であり続けたいですね」

やまぐち・さなえ 養護教諭 1976年文教大学付属中学校高等学校に第1号養護教諭として赴任。保健室から生徒の心と体の健康を見守り続けている。

お友だちとの関わりや遊びを通して学び、生きる力の土台をつくる

文教大学付属幼稚園 佐伯ユミ先生(写真右)/水品佳代子先生(写真中央)/鈴木利江先生(写真左)

いわゆる教育というと「勉強」「学習」という言葉を連想してしまいが、幼稚園教育の場合はどうなのだろうか。新しくなった園舎で3人の先生に教育への思いを聞いた。

佐伯ユミ先生●まさに幼稚園の学習は、生活の学びです。着替える、ご飯を食べる、トイレに行く、片付けるなど、自分のことは自分でできて、それが子どもたちの自立の第一歩で

はないかと思えます。自分のことができて初めて、人のことも考えられるようになるのではないのでしょうか。人は人との関わりの中で生きていくわけですから、そうした力はとても大切だと思います。

鈴木利江先生●幼稚園は初めて経験する集団生活です。手を洗うにも順番があるし、おもちゃはお友だちと分け合わなくてはなりません。家ではなかった経験を通して順番を守る、人の痛みを知るといったことを学び、相手の気持ちを考えて行動できるよう成長してほしいです。

水品佳代子先生●遊びたい時期に十分に遊び時間を確保してあげることはとても大事だと思います。遊びの中から学び、意欲や自発性も伸びてくるのではないのでしょうか。例えば、縄跳びにしても、リズムカルな曲に合わせて、楽しみながら行うといつの間にか跳べるようになって、次は「〇〇跳び」と自ら課題をもって取り組んでいます。

そして3人の先生が口を揃えて言うのは、「生きる力の土台を養う」そして、「たくさん遊んで、笑って、泣いて、力強く生きる力を身につけて巣立ってほしい」ということ。「これが私たちの願いです」





文教大学学園 校友会の輪

2012年に発足した「文教大学学園校友会」は各校校友団体の連合体です。
校友同士の輪(和)の形成を目指しています。

文教大学 藍蓼会

昨年度も6月の定期総会を皮切りに、茨城県支部・兵庫県支部を設立。その他、各県支部での総会や会合、OB・OG会・クラス会など21団体の会員交流や研修会が行われました。また、大学との共催「湘南ホームカミングデー」、在学生への援助、1982年から続いている「ご退職なさる教職員を囲む会」の開催など、大学・教職員・卒業生・在学生が一つとなる活動も続けています。今年の5月には1973年創刊の会報「あいたで」が100号を迎えました。急がず、休まず、継続は力なりをモットーに、建学の精神「人間愛」に育てられた全国各地の多くの卒業生の絆を大切に、文教大学の同窓会として母校の発展を願い、今年度も活動します。

- 会員数：38,402名
- 問合せ先：[藍蓼会事務局] 〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337
☎048-974-8811 ☎048-979-6644 ✉aitade@www.bunkyo.ac.jp



▲2015年度ホテルニューオータニで行われた「ご退職なさる教職員を囲む会」の様子

文教大学女子短期大学部 芙蓉会

芙蓉会は、会報などを通して会員相互の絆を大切にしています。聳塔祭では、喫茶「芙蓉」を出店し、日本文化の茶の湯を若い世代の方々に体験していただきたいと活動しております。また今年から来年にかけての大きな目標は、旗の台校舎構内に女子短期大学発祥の地の記念碑を建立することです。現在、会員に寄附を募り事業を進めております。

- 会員数：30,157名
- 問合せ先：[芙蓉会事務局]
〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
☎0467-52-4075 ✉fuyou@www.bunkyo.ac.jp
http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fuyou/



▲聳塔祭の喫茶「芙蓉」役員の集合写真

文教大学経営情報専門学校 翔華会

13年間の短い歴史をもって1998年3月に経営情報専門学校は閉校しました。同時に記念誌「翔」を発行しこの会の活動は休止しています。卒業生は仕事にプライベートに忙しい世代です。時間に余裕ができ、再び「翔」ける日まで充電中です。

- 会員数：2,842名
- 問合せ先：✉arao@stf.bunkyo.ac.jp (担当：荒尾)

文教大学附属高等学校 三蓉会



三蓉会では、卒業生の方達に楽しんで参加していただけるイベントを企画して、皆さまのお越しをお待ちしております。今後も付属校を応援するとともに、学園の発展に寄与していきたいと思っております。

- 会員数：23,148名
- 問合せ先：[三蓉会事務局] (木曜日開室)
〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17 ☎03-3784-0524
✉sanyokai@hatanodai.bunkyo.ac.jp



文教大学附属小学校 同窓会

1951年に小学校が創立され、今年で60期生の卒業生を送りました。2クラス化も3年生にまで進んで、フレッシュな先生方も沢山加わりました。新校舎と共に益々活気のある小学校を温かく見守りながら、同窓会としてお手伝いをしております。

- 会員数：2,181名
- 問合せ先：〒145-0065 東京都大田区東雪谷2-3-12
☎03-3720-0792 (同窓会専用) ✉besrc_2008@yahoo.co.jp

文教大学附属(溝の口)小学校 校友会

2007(平成19)年に再々発足をし、5年後の学園校友会の立ち上げと共に資金的な援助が受けられるようになり、夏の高津区民祭、冬の大山街道フェスタにそれぞれ2回出店、校友生の立ち寄り場を提供しています。



- 会員数：約500名
- 問合せ先：
〒206-0804 東京都稲城市百村606 ☎042-377-7717
✉tomi-jun@cream.plala.or.jp (担当：4回生 富永)
http://www.yannet.biz/bunkyo-koyukai/ (担当：17回生 矢内)
Facebookもあります！HPともに「文教大学附属溝の口小学校校友会」で検索

文教大学 父母と教職員の会

父母教は保護者と大学とをつなぐ情報交換の場です。本会は、今年創立40年目を迎えます。保護者と教職員が緊密に連絡・協力して、文教大学の発展・向上に寄与することを目的とした会です。全45支部での総会・研修会、学生の諸活動や生活及び就職対策支援、100円朝食の共催等様々な活動をしています。

- 会員数：8,819名(正会員/在学生 大学院108名含む)、367名(教職員会員)、100名(賛助会員)
- 問合せ先：
[父母教越谷事務局]
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337
☎048-974-8811 内線1051
[父母教湘南事務局]
〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100 ☎0467-53-2111 内線640
✉fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp
http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fubokyo/



文教森の会 旧文教大学附属幼稚園(越谷)同窓会

文教森の会は、オリジナルな魅力ある会にしようとして毎回テーマを決めて活動を展開——昨年5月は、元荒川土手にてのオリエンテーリング、12月には手作りのプチクリスマスを楽しみました。本年は10月に行いますので、ぜひご参加ください。

- 会員数：61名
- 問合せ先：〒332-0035 埼玉県川口市西青木2-4-41-510
☎048-252-1757 (担当：林)
✉fmk.61012@aa.cyberhome.ne.jp



文教大学 ビジネス同友会



ビジネス現場で日々奮闘する同窓生が、縦横の繋がりを深め情報交換できる親睦団体です。様々な職種で活躍する会員は、就職したばかりの20代から60歳をこえたベテランまで、短大を含めた全学部の文教OBに亘ります。

- 会員数：約200名
- 問合せ先：〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17
☎04-7145-5036 ✉bunkyo.bd@gmail.com
http://bunkyobiz.net/

文教大学学園 退職職員の会

退職職員の会は、文教大学学園(旧立正学園)の職員であった事の喜びと誇りと榮譽を持つとともに会員相互の親睦を図ることを目的に、2014年5月に発足しました。主な活動内容は、定期総会・名簿管理・ニュース発行などです。

- 会員数：58名
- 問合せ先：
〒146-0085 東京都大田区久が原1-32-2
☎03-6410-9943 (担当：鈴木)



日々着々と進化していく文教大学学園のタイムリーなニュースをお届けします！

文教大学 小学校／中学校 教員採用者数 私立大学 全国第1位！

2016年4月14日発売「大学ランキング2017」（朝日新聞出版）によると、教員採用者数(2015年大学通信調べ→2014年度実績)は以下の通りでした。

小学校		中学校	
9年連続	私立大学 全国第1位	3年連続	私立大学 全国第1位
国公私立	全国第4位 (246人)	国公私立	全国第4位 (132人)
1 愛知教育大	273人	1 愛知教育大	172人
2 大阪教育大	269人	2 北海道教育大	148人
3 北海道教育大	259人	3 大阪教育大	146人
4 文教大	246人	4 文教大	132人
5 岐阜聖徳学園大	232人	5 日本大	97人
6 東京学芸大	178人	6 日本体育大	93人
7 明星大	166人	7 東海大	84人
8 福岡教育大	159人	8 立命館大	79人
9 千葉大	158人	9 静岡大	78人
10 都留文科大	151人	10 信州大	77人

「あやなり」Webサイト公開！

Webサイトの特集企画では、「文教スピリット」（本誌14ページ）にも登場した、文教大学学園石田学園長と文教大学教育学部の星野教授が、熱い教育論を展開しています。他にも、誌面に掲載しきれなかった文芸人や恩師の方々のエピソードが満載！また、今年からWebサイトからのアンケート入力が可能になりました。ぜひ、「あやなり」の感想やご意見をお聞かせください。




<http://www.bunkyo-ayanari.jp>

文教大学 2016年に 創立50周年を迎えます

文教大学は、2016年に創立50周年を迎えます。これを記念し、様々なイベントを実施する予定です。イベントの内容等については、特設サイトをご覧ください。

創立50周年記念サイト
▶ <http://www.bunkyo.ac.jp/guide/50th/>

文教大学 健康栄養学部笠岡ゼミ協力 「ハラール・レシピ・ジャパン」公開

健康栄養学部の笠岡ゼミがレシピ作成で協力した、イスラム法で合法的な食事「ハラール」のレシピ検索サイト「ハラール・レシピ・ジャパン」が2015年11月25日に公開されました。こちらは株式会社 伝が運営する日本で初めてのムスリム対応のレシピ専門サイトで、在日ムスリムの方に日本の家庭料理をご自身で楽しめようという目的で作られました。笠岡ゼミはレシピ作成で協力しており、「鯉のガーリックステーキ」や「手作りどら焼き」など、家庭料理からスイーツまで40以上のレシピを提供し、今後も公開レシピ集を増やしていく予定です。



「ハラール・レシピ・ジャパン」
▶ <http://www.halalrecipes.jp/introduction/author/>
笠岡ゼミの詳細はFacebookをご確認ください。

文教大学 「文教大学教育フォーラム 2017」のお誘い

今年度も、教員や教育関係者に就く卒業生の“気楽な”情報交換会、「文教大学教育フォーラム」を2017年2月25日(土)に越谷キャンパスで開催します。石田恒好学園長の講演と、在学を交えた懇話会を予定しています。詳細は12月にHPと藍蓼会会報に同封する文書でご案内します。



<http://www.bunkyo.ac.jp/etc/bkforum/>

小学校 オーストラリア体験を実施しました

2015年7月下旬、「国際オーストラリア体験」に第1期生10名の子どもたちが参加しました。滞在中は、ホームステイをしながら、現地の学校に通いました。日本では体験できないできごとが、一人ひとりを大きく成長させてくれました。2016年も7月下旬に実施します。



幼稚園 新園舎完成！！



2015年8月に、文教大学付属幼稚園の新園舎が完成しました。保育室は南向き、全面ガラス張りです。「おもいで学舎(本誌9ページ)」にも写真を掲載していますので、併せてご覧ください。

文教大学 越谷校舎吹奏楽部が 第63回全日本吹奏楽コンクールで15回目の金賞受賞！

2015年10月24日に札幌市で開催された「第63回全日本吹奏楽コンクール」大学の部で、全国から各ブロックの代表校12校が熱演を披露したなかで、本学越谷校舎吹奏楽部が金賞を受賞しました。今回で全国大会23回目の出場で、15回目の金賞受賞となりました。



体育会野球部が第38回全日本学生軟式野球選手権大会で日本一に！！

越谷校舎の体育会野球部が2015年8月27日に福岡県で開催された「第38回全日本学生軟式野球選手権大会」で9年ぶり5回目の優勝を果たしました。



文教大学付属校 入試関連イベントのお知らせ

付属中学校高等学校 入試関連イベント

入学をお考えの受験生やその保護者の皆様をはじめ、多くの方々に本校の教育方針や教育内容を知っていただくため、学校説明会を開催します。このほか、プレミアム説明会、授業公開デーや各種イベントの際、ご希望の方を対象に施設見学(授業見学)、個別相談を承ります。詳しくは、文教大学付属中学校高等学校のHP、「入試案内」でご確認ください。 <http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/ghsn/entrance/>

【学校説明会】

日程	付属中学校	付属高等学校
9月17日(土)	10:30~11:50	14:00~15:20
10月15日(土)	10:30~11:50	14:00~15:20
11月5日(土)	14:00~15:20	10:30~11:50
11月26日(土)	10:30~11:50	14:00~15:20

付属小学校 学校説明会のお知らせ

入学をお考えの受験生や保護者の皆様をはじめ、公開授業参観、学校説明会、個別相談会など、学校の様子をご覧いただき、学校教育方針をご理解いただける会を開催しています。詳しくは、文教大学付属小学校のHPの「入学案内」でご確認ください。

日程	授業	説明会	個別相談会	備考
9月6日(火)	8:45~10:20	10:30~11:20	11:30~12:30	
9月24日(土)	8:45~10:20	10:30~11:20	11:30~12:30	在校生保護者との面談あり
10月4日(火)	8:45~10:20	10:30~11:20	11:30~12:30	入試模擬体験あり

<http://www.bunkyo.ac.jp/bkshogak/entrance/>

付属幼稚園 入園説明会のお知らせ

詳しくは、文教大学付属幼稚園のHP「入園について」でご確認ください。
<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/youchien/admi/index.htm#>

日程	授業
9月8日(木)	10:00~11:00

イベント告知 Information

卒業生が参加可能なイベントがたくさん開催予定です。
ふるってご参加ください。

文教大学 藍蔘会

●ホームカミングデー(文教大学との共催)

2016年10月15日(土) 場所:文教大学越谷キャンパス

学生時代を過ごした懐かしいキャンパスで、母校の今に触れるとともに、懐かしい恩師や学友との再会、交流、親睦を深める機会として活用いただきたく、ホームカミングデーを開催します。今年は越谷キャンパスでの開催となります。(隔年で、越谷キャンパスと湘南キャンパスで開催しています)。ぜひご来場ください!

文教大学女子短期大学部 芙蓉会

●聳塔祭

2016年11月5日(土)

場所:文教大学
湘南キャンパス

喫茶「芙蓉」出店。「茶道体験
～お抹茶点ててみませんか～」
ミニバザーも開催。



文教大学附属高等学校 三蓉会

●白蓉祭(文化祭)

2016年9月10日(土)～9月11日(日)

場所:旗の台キャンパス

卒業生の皆様、お飲み物を用意してお待ちしております。ぜひ三蓉会ブースにお立ち寄りください。

●中学・高等学校 授業公開デー

2016年10月8日(土)・11月30日(水)

11:00～12:20(受付11:30まで)

場所:旗の台キャンパス

※詳細は中学・高等学校HPをご覧ください。



文教大学附属(溝の口)小学校校友会

●大山街道フェスタ(出店予定)

お茶でも飲んでいれば誰か校友生が来る!

2017年3月5日(日) 10:30～14:30頃

※詳細は年末以降の校友会HP/FBIにて

場所:旧大山街道増屋商店店頭を予定

小学校旧校舎ほかのパネルを掲示し、校友生からの情報の収集や提供を行うほか、販売するひねのジャガイモ(または銀杏)のつかみ取りを1回無料にします。新ジャガも美味しいですが、デンプンが糖分に変化した「ひねジャガ」、これも美味しいです。



文教大学附属小学校同窓会

●バザー(父母の会主催)

2016年10月8日(土)

場所:文教大学附属小学校1F

●同窓会フェスティバル

2016年10月29日(土) 14:00～

場所:文教大学附属小学校

3F 講堂

今回のフェスティバルには、進藤先生はじめ懐かしい顔ぶれの先生方がお見えになる予定です。また、大好評だった大学生の和太鼓部「楓」の迫力ある演奏や、お楽しみのビンゴゲーム等のイベントもありますのでぜひご期待ください。

文教森の会(旧文教大学附属幼稚園(越谷)同窓会)



●第5回「文教森の会」

「簡単で美味しい手作りうどんを楽しむ」

2016年10月30日(日)

場所:越谷市荻島地区センター
総会、手作りうどんと会食他。

※詳細は8月号広報にて
お知らせいたします。

文教大学ビジネス同友会

●第3回 キャリアサロン

2016年10月の土曜日午後(詳細未定)

場所:旗の台キャンパス(予定)

「メディア転職」「女性フロントランナー」につづく3回目(テーマ未定)。職務当事者のスピーチを中心に、ビジネス・キャリアを探ります。

※詳細は文教大学ビジネス同友会HPでご確認ください!



編集 後記

●文教大学学園に関わる“人”や“物”を紹介してきました「あやなり」も第3号を発行する運びとなりました。第3号でも、魅力的な卒業生や、人間愛あふれる現役・退職教員の方々に登場していただくことができました。誌面に掲載しきれなかった情報は「あやなり」Webサイトに掲載していますので、ぜひそちらもご覧ください!(校友会会)

※送付先住所は、各校友団体の協力を得て最新のデータで送付しておりますが、旧住所や宛名間違い等がございましたらご寛恕ください。その場合はご連絡いただけますと幸いです。

※「文教人」の卒業生数は、本学園創立から2016年3月までの、各校の卒業生数を集計したものです。複数校を卒業している方の「名寄せ」は行っていませんのでご了承ください。また、附属中学校高等学校については、高等学校卒業時点でカウントしています。

あやなり

文教大学学園校友会報

2016.7.31 第3号

発行:文教大学学園

編集:経営企画局校友会室

制作:文化工房

〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17

TEL:03(3783)5511(代)

FAX:03(3783)6109

E-mail:alumni@stf.bunkyo.ac.jp